

取り扱い説明書

www.umbrella-company.jp

無断での利用、配布、複製などを固く禁じます。

Midilooper は、MIDI メッセージ（ノート、ダイナミクス、その他のパラメーターに関するコントロール情報）を、（オーディオルーパーがオーディオの一部をループするのと同じように）ループさせる事ができる特別なデバイスです。MIDI メッセージのループにはコントロールを追加していく事も可能なため、さらに多くのプロセス（モジュレーション、エンベロープの調整など）を加えて、ループを次々と発展させることができます。

ループは最も直感的に、素早く音楽をクリエイトできる手法であるため、Midilooper のコントロールはストレスのないアクセスとコントロールにこだわっています。滑らかなワークフローで一連の操作ができるよう工夫されています。

Midilooper は、MIDI クロックまたはアナログクロックのいずれかに同期することも、独自のクロック（タップテンポ/フリーランニング）で動作することもできます。

また、Midilooper には 3 つのボイスがあり、それぞれを異なる MIDI チャンネルに割り当てることができるため、3 つの機材をコントロールしながら、ループを構築していく事が可能です。各ボイスは個別にレコーディング、ミュート、オーバーダビング、またはクリアできます。移調、ベロシティのロックやシフト、クオンタイズ、シャッフル、ヒューマナイズ（ランダムベロシティ）、ループ長、または再生スピードなど、レコーディングされた情報を変化させるプロセッシングも自由自在です。

さらに、モジュラーシンセからのアナログ CV 信号やトリガー信号を受ける事ができるため、ループに対して、リセット、リトリガー、ベロシティ、トランスポーズを各々モジュレーションする事ができます。フットペダルを接続することも可能です。

この中毒性の高い Midilooper は、従来のシーケンサーや DAW とは全く異なるアプローチで、今までにありそうでなかった形の「音楽の表現方法」を提示しています。

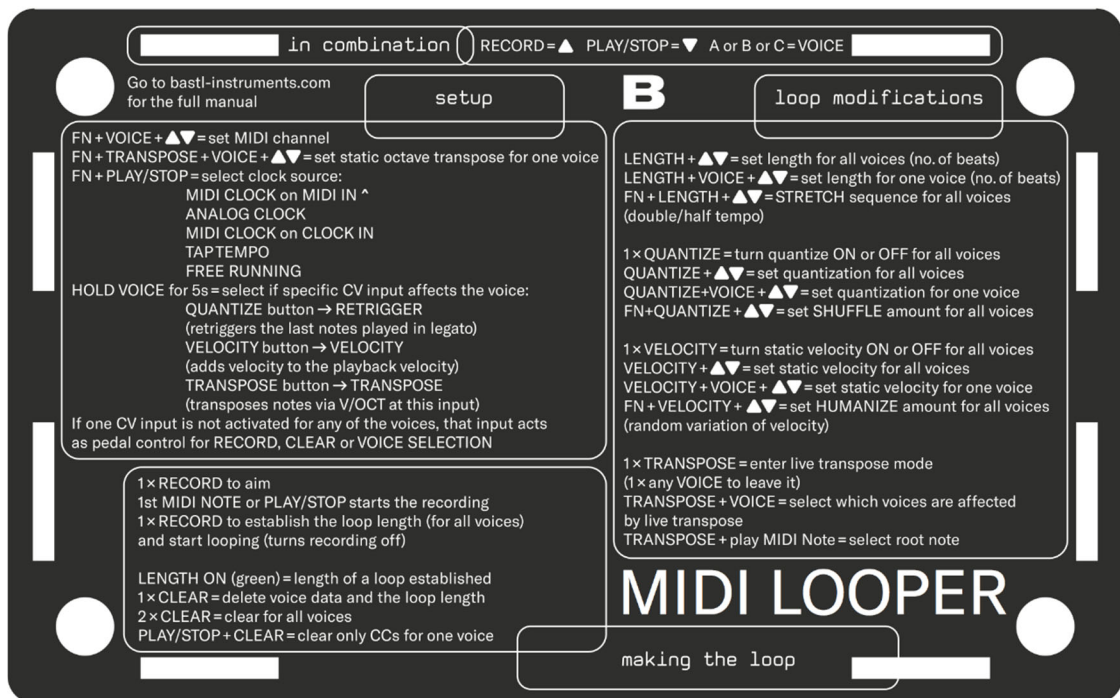
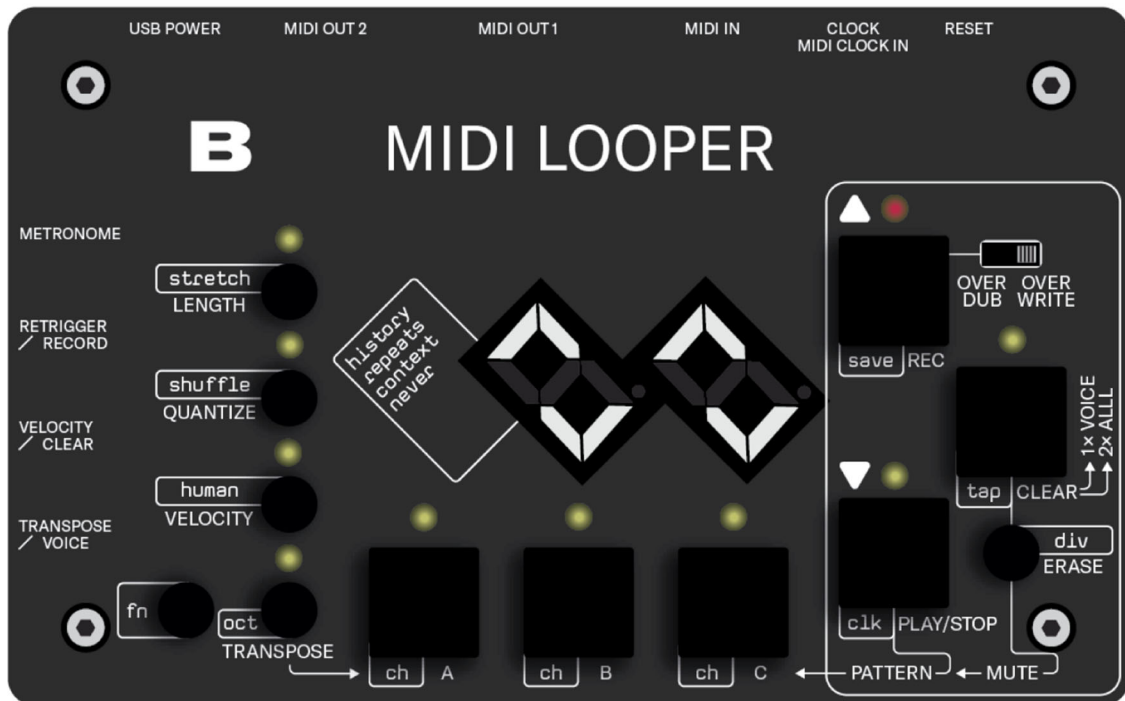


Features:

- 3つの独立したボイス（それぞれ個別のMIDIチャンネルが割り当てが可能）
- オーバーダブ/ オーバーライト（上書き）モード
- トランスポーズ（移調）モード
- オクターブ・トランスポーズ
- クオンタイズ、ベロシティロック、シャッフル、ヒューマナイズ
- ループレングス(odd)、タイムストレッチ
- ミュート、クリア、イレース
- 1×MIDI入力、2×MIDI出力
- クロック入力（アナログクロックまたはTRS MIDIクロック）
- アナログ・リセット入力
- メトロノーム出力
- CV入力（トランスポーズ、ベロシティ、リトリガー）
- ペダルコントロール（レコーディング、クリア、ボイス選択）
- USB電源
- アナログクロック用の調整可能なディバイダー/マルチプライヤー

Technical details

- USB電源（USBケーブルは付属）
- 寸法: 125×80×35 mm
- MIDI-TRS変換ケーブルは別売 *KORG互換のものが利用できます



Setting up

Midilooper はすべての MIDI チャンネルを解析し、選択したボイスに割り当てられた MIDI チャンネルでのみ MIDI メッセージを転送します。 A、B、C のボタンでボイスを選択します。

MIDI LOOPER v1.0 RECOGNIZES AND RECORDS THESE TYPES OF MESSAGES:

MIDI NOTE

MIDI CHANNEL (1-16)
ON or OFF
NOTE NUMBER (0-127)
VELOCITY (0-127)

MIDI CC

= CONTROL CHANGE
(MOD WHEEL OR KNOBS)
MIDI CHANNEL (1-16)
CONTROL NUMBER (0-127)
CONTROL VALUE (0-127)

MIDI PITCH BEND

MIDI CHANNEL (1-16)
PITCH BEND VALUE (0-16383)

SPECIAL CCs

SPECIAL TYPE OF CCs
ARE INTERPRETED DIFFERENTLY:
- SUSTAIN PEDAL
- ALL NOTES OFF ETC.

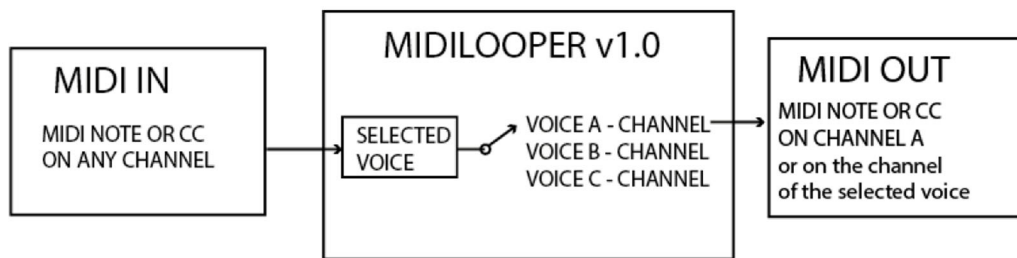
READS AND INTERPRETS THE REAL TIME MESSAGES
(THEY DO NOT HAVE MIDI CHANNEL)

MIDI CLOCK

MIDI STOP

MIDI START

MIDI CONTINUE



Initial Connection

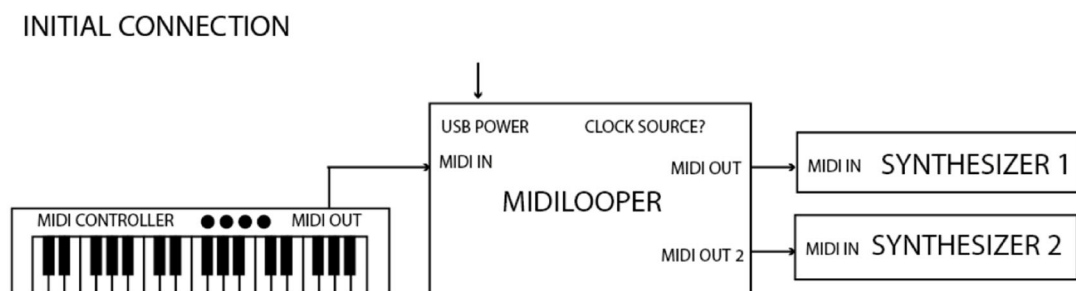
MIDI を出力するキーボードやコントローラーを、Midilooper の MIDI 入力に接続します。

Midilooper の MIDI Out を、MIDI を受信するシンセまたはサウンドモジュールに接続します。

さらに Midilooper の MIDI Out 2 を別のシンセに接続することも可能です。

USB 電源を Midilooper に接続します

ヒント：MIDI 情報を受信している場合は、ディスプレイの最初のドットが点滅します（プレーヤーが停止している場合のみ）



Set the MIDI channels

ボタンの組み合わせによって、これらのボタンは矢印としても機能します。

REC = UP

PLAY / STOP = DOWN

VOICE ボタン A、B、C でボイスを選択します。 ボタンを押してボイス A を選択し、**FN + A + UP / DOWN** を押すと出力 MIDI チャンネルを設定できます。 ディスプレイには MIDI チャンネル番号が表示されます。

シンセの MIDI 入力チャンネルを同じチャンネルに設定します。 正しく設定されるとキーボードのノートを演奏すると、これらのノートがシンセで再生されます。 表示されない場合は、Midilooper とシンセの両方の接続、電源、MIDI チャンネルの設定を再度確認してください。

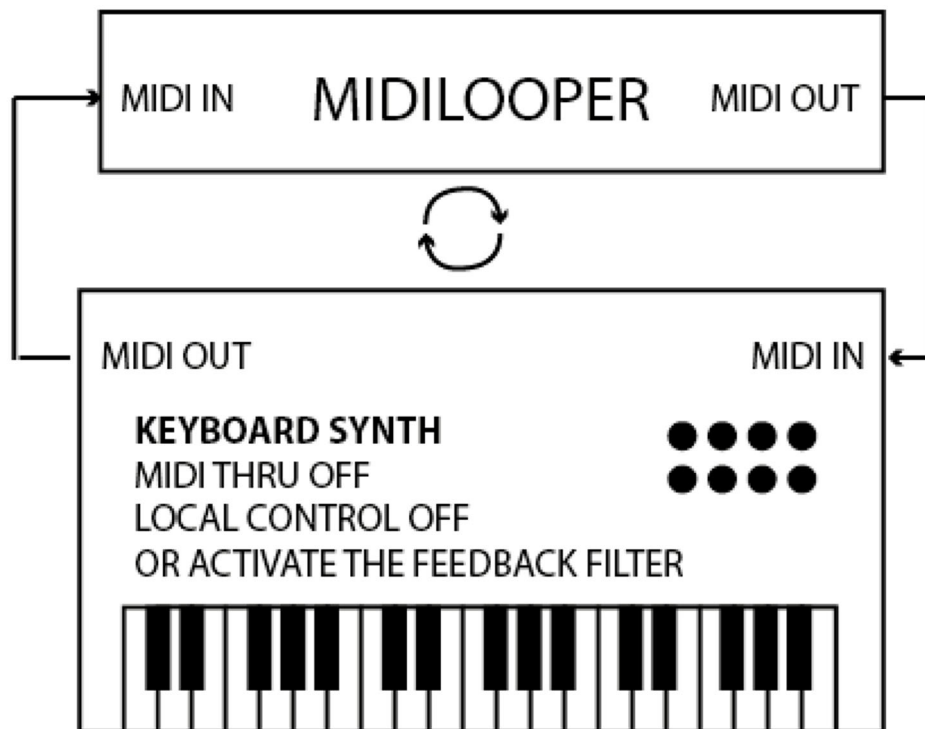
ボイス B と C を設定する場合も同じ手順に従います。

ヒント：この時点でオクターブ・オフセットをボイスに追加することもできます（各シンセを別のオクターブで演奏することができます）。そのためには、**FN + TRANSPOSE + VOICE + UP / DOWN** を押します

Getting MIDI feedback?

シンセで MIDI インと MIDI アウトを使用する場合に、一部のシンセでは MIDI フィードバックが発生することがあります。その場合はシンセの MIDI Thru と Local Control を無効にします。これらを実行できない場合、または実行したくない場合は、Midilooper で「**MIDI FEEDBACK FILTER**」をアクティブにできます。 **フィードバックしているボイスの MIDI チャンネルを選択しながら、CLEAR ボタンを押します。** これにより、MIDI フィードバックフィルターがオンになります。つまり、その特定のチャンネルのライブプレイバックを無効にすると、ループした素材のみが再生されます。他の MIDI チャンネルに変更すると、この機能は初期のオフ状態にリセットされます。

GETTING MIDI FEEDBACK?



Connect and select your clock source

Midilooper のクロッキングにはいくつかのオプションがあります。

FN + PLAY / STOP でクロックソースを選択できます。選択は次の順序でサイクルします。

- 1、**MIDI 入力の MIDI クロック**（表示矢印がパネル表示の MIDI IN の“方向”を指した状態）
- 2、**クロック入力のアナログクロック**（REC LED 点灯）*
- 3、**クロック入力の MIDI クロック**（REC LED が点滅）-このオプションを使用するには、MIDI からミニジャックへのアダプターが必要になります**
- 4、**タップテンポ**（Clear LED 点灯）-**FN + CLEAR = TAP** で設定されたテンポ
- 5、**フリーランニング**（Clear LED 点滅）-クロックは不要です！テンポは最初の録音の長さによって設定されます（オーディオルーパーと同様）。

*アナログクロックを使用している場合は、DIVIDER を調整することをお勧めします。

**標準の MIDI コネクタ（5 ピン DIN）から 3.5 mm（ $\frac{1}{8}$ インチ）TRS MIDI ジャックアダプタに互換性のないバージョンが市場に出回っているので注意してください。それらはミニジャック MIDI の標準化前の期間（2018 年半ば頃）に開発されたものです。本機は midi.org によって指定されたスタンダードに準拠しています。一般には KORG 互換のアダプターです。

ヒント：クロックがアクティブかどうかを確認するには、プレーヤーが停止している間にディスプレイ上の 2 番目の DOT を監視して確認できます。

Further Connections

- ・ **Metronome Out** -ヘッドフォン用のメトロノーム出力。
- ・ **Reset In** -Midilooper を最初のステップに戻します。
- ・ CVs or Pedals -3 つのジャック入力は CV 入力またはペダル入力として使用でき、Midilooper をコントロールできます。
- ・ CV は、1 つ、2 つ、またはすべてのボイスに影響を与えることができます。

ボイスに対して CV をアクティブにして選択するには、**VOICE ボタンを 5 秒間押してから**、次のコマンドを実行します。

- ・ **QUANTIZE** ボタン = リトリガーを有効にします
- ・ **VELOCITY** ボタン = VELOCITY CV を有効にします
- ・ **TRANPOSE** ボタン = TRANPOSE CV を有効にします

特定のジャックで CV を受信するように設定されているボイスがない場合は、ジャックは**ペダル入力**として機能します。

- ・ **RETRIGGER 入力** = RECORD ボタンとして機能します
- ・ **VELOCITY 入力** = CLEAR ボタンとして機能します
- ・ **TRANPOSE 入力** = ボイスを循環させます

ヒント：サステインタイプのペダルを接続して、レコーディングボタン、クリアボタン、またはボイス選択をコントロールできます。標準の 6.3mm（ $\frac{1}{4}$ ”）ではなく、アダプターを使用して 3.5mm（ $\frac{1}{8}$ ”）にする必要があります。入力は、チップとスリーブ間の接触に応答します。ジャックコネクタのチップとスリーブの間にボタンの接触を配置することにより、独自のペダルを構築することもできます。チップとスリーブの接触のみを検出しています。

Looping

Recording initial loop

RECORD ボタンを押して録音を「待機状態」にします。録音は最初に受信した MIDI ノートから、または PLAY / STOP ボタンを押すとすぐに開始されます。

ループを終了するには、フレーズの最後にある RECORD ボタンをもう一度押します。これで LENGTH LED が緑色に点灯し、ループの長さが確立されたことを示します。長さはすべての VOICE に対して自動的に確立されます。

各ボイスの長さを個別に変更したり、CLEAR 機能を使用して録音して長さを設定できます。

Overdub / Overwrite

最初の録音が完了したら VOICE を切り替えて別の楽器のループを録音するか、同じ VOICE にレイヤーを追加できます。

OVERDUB モードで録音すると、新しいレイヤーが追加され続けます。

OVERWRITE(上書きモード)では、最初に録音された素材は、少なくとも 1 つのノートが新しく録音されるとすぐに削除されます。

Erase

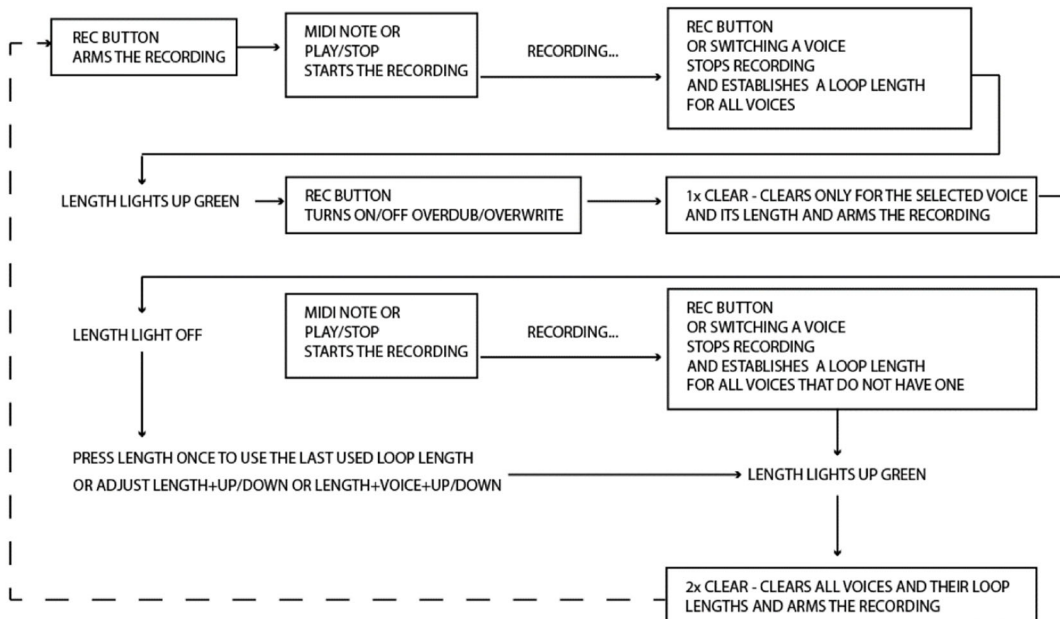
ERASE ボタンは再生中にボタンを押している間だけ、記録された情報を削除します。選択した VOICE に対して機能します。

Clearing a loop and making a new one

選択した音声のループをクリアするには、**CLEAR ボタンを 1 回押します**。これにより、録音されたすべての素材が削除され、ループの長さもリセットされます。このクリア操作は同時に次の録音を「準備」することになります。

CLEAR ボタンをダブルクリックすると、すべてのボイスがクリアされ、ループの長さがリセットされ、プレーヤーが停止して録音が待機状態になります。このマクロにより、単一のジェスチャーで新しいループに備えて Midilooper を準備できます。

LOOPING FLOW CHART

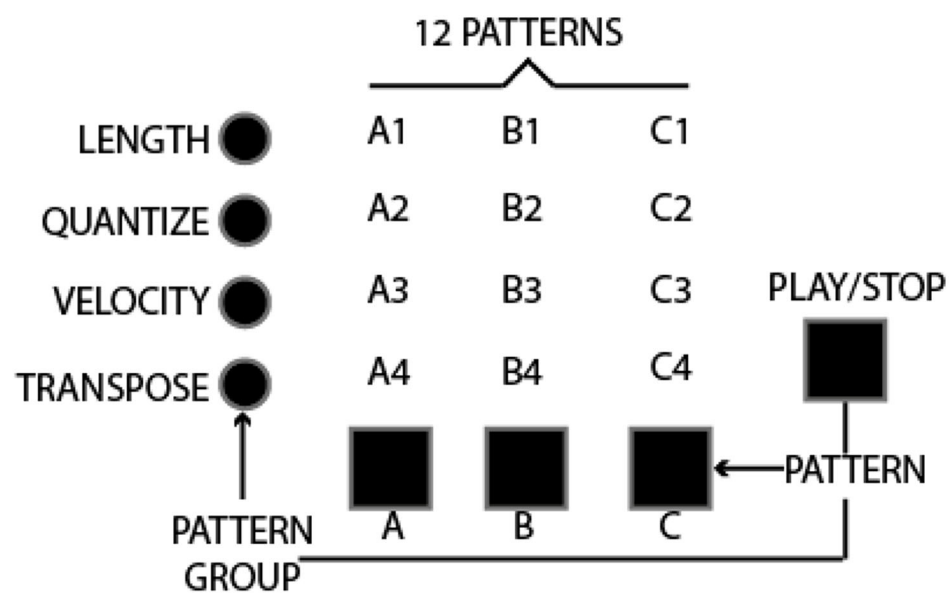


Mute

CLEAR ボタンを押したまま個々のボイスボタンを押すと、音声がミュート/ミュート解除されます。

Pattern selection

3つのボイスが録音されたループはパターンと呼ばれます。 **12種類のパターン**を切り替えるには、**PLAY ボタンを押しながらボイスボタンの1つを押して**、3つのパターンのいずれかを選択します。3つのパターンで構成される4つのグループがあり、異なるパターン・グループにアクセスするには、PLAY ボタンを押したまま、**4つの小さいボタン (LENGTH、QUANTIZE、VELOCITY、TRANSPOSE)**を押します。



Saving patterns

パターンを保存するには、**FN + REC** を押します。

Note: パターンを除く他のすべての設定は自動的に保存されます（クロック選択、MIDI チャンネルなど）。

Modifying the loops

Length

ループの長さはグローバルに変更できます : **LENGTH + UP / DOWN**

またはボイスごとに変更 : **LENGTH + VOICE + UP / DOWN**

ディスプレイにはループの長さが表示されます（ビート単位）。低い設定ではポリリズムの設定が可能になります。

AVAILABLE LOOP LENGTHS (in number of beats):

01	02	03	04	05	06	07	08
09	10	11	12	15	16	24	32
36	48	56	60	64			

and further displayed with the „dots“ as:

	08.	16.	24.	32.	40.	48.	56.	64.
64+x=	72	80	88	96	104	112	120	128
	08.	16.	24.	32.	40.	48.	56.	64.
128+x=	136	144	152	160	168	176	184	192
	08.	16.	24.	32.	40.	48.	56.	64.
192+x=	200	208	216	224	232	240	248	256

Quantize

クオンタイズは、記録した素材をグリッドに強制的にスナップします。QUANTIZE ボタンを 1 回押すだけで ON / OFF できます。

QUANTIZE の量はグローバルに変更できます : **QUANTIZE + UP / DOWN**

またはボイスごとに変更できます : **QUANTIZE + VOICE + UP / DOWN**

ディスプレイ上の数字は、録音された素材がクオンタイズされるグリッドのタイプを表します。

QUANTIZATION OPTIONS

00	no quantisation (use it to turn it off for one voice)
32	quantizes to 1/32th notes
16	quantizes to 1/16th notes
08	quantizes to 1/8th notes
04	quantizes to quarter notes
03	quantizes to tripplets
06	quantizes to sextuplets

Velocity

VELOCITY を有効にすると、記録されたすべてのノートのベロシティがフィルタリングされ静的な値になります。

VELOCITY の値はグローバルに変更できます : **VELOCITY + UP / DOWN**、
またはボイスごとに変更できます : **VELOCITY + VOICE + UP / DOWN**

ヒント : ベロシティを「00」未満にすると、ベロシティの「ノーマル」または「ノーチェンジ」は「NO」になります。 このように、特定のボイスだけがベロシティによって影響を受けることができます。

Transpose

トランスポーズモードでは、録音した素材をキーボードからのライブ入力でトランスポーズできます。トランスポーズモードは、TRANPOSE ボタンを押すとアクセスされ、いずれかのボイスボタンを押すと終了します。

トランスポーズモードの影響を受けるボイスを選択するには、**TRANPOSE を押したままボイスボタンを押して**、ボイスごとのエフェクトを有効/無効にします。

移調は、ルートノートに相対的に適用されます。ルートノートを選択するには、**TRANPOSE ボタンを押しながら、MIDI 入力を介して MIDI ノートを演奏します**（ルートノートが設定されたことを示すためにディスプレイの DOTS が点灯します）。

ルートノートが選択されている場合、キーボードでノートを押すと、ルートノートに対して選択されたボイスの録音された素材がトランスポーズされます。最後に押されたノートは有効なままです。

トランスポーズモードを終了すると、トランスポーズが削除されますが、ルートノートは記憶されます。

注：トランスポーズモードを有効にするには、少なくとも 1 つのボイスをアクティブにし、ルートノートを選択する必要があります。

Stretch

ストレッチは、録音されたループを半分または 2 倍の速度で再生できます。

ストレッチを変更するには、**FN + LENGTH + UP / DOWN** を押します。

すべてのボイスに適用されます。

Shuffle

シャッフルは、スイング効果を実現するために特定の 16 分音符にディレイを追加します。

FN + QUANTIZE + UP / DOWN を押して、シャッフル量を調整します。

正の値はスイングエフェクトを実現するために、設定されたパーセンテージで 2 番目の 16 分音符ごとにディレイさせます。負の値は送信されたすべての MIDI メッセージにランダムなタイミングディレイをそれぞれ追加して、より人間的なタイミング感を実現します。

すべてのボイスに適用されます。

Humanize

Humanize は、演奏された MIDI ノートのベロシティをランダムに変更します。

FN + VELOCITY + UP / DOWN を実行して、ヒューマナイズの適応量を設定します。

量が多いほど、ランダムに影響を受けるベロシティが大きくなります。

すべてのボイスに適用されます。

Octave

ボイスに静的なオクターブオフセットを追加することもできます。各シンセは異なるオクターブで演奏できますが、パフォーマンスを変更することもできます。

FN + TRANSPOSE + VOICE + UP / DOWN を実行して、ボイスごとのオクターブオフセットを変更します。

External Control

Retrigger

リトリガー入力は、ノートオフとノートオンを連続した順序で送信し、レガートで演奏された最後のノートセットに対して短いノートオンとノートオフを送信することで、エンベロープをリセットします。これは、リリース後もレガートで演奏されたすべてのノートに適用されます。「レガートで演奏」とは、あるノートの終わりを別のノートの始まりで重ね続けるか、すべてのノートをリリースするまで、Midilooper がこれらのすべてのノートをレガートで演奏したことを記憶することを意味します。簡単に言えば、コードを演奏してリリースしてからリトリガーを適用すると、それらのノートがリトリガーされます。

リトリガーは、1 つ、2 つ、またはすべてのボイスに適用できます。CV 入力の割り当て方法については、その他の接続を参照してください。

Velocity CV

ベロシティ CV 入力は、記録されたマテリアルの Velocity 値に追加されます。これは、ベロシティ機能と組み合わせて使用したり、特定のノートにアクセントを追加するために使用したりできます。

Velocity CV は、1 つ、2 つ、またはすべてのボイスに適用できます。割り当て方法については、その他の接続を参照してください

Transpose CV

Transpose CV 入力、録音された素材のノート値に追加されます。 入力は Volt/per Oct でスケーリングされます。 これは、トランスポーズまたはオクターブ機能と組み合わせて使用できます。

Transpose CV は、1 つ、2 つ、またはすべてのボイスに適用できます。 CV 入力の割り当て方法については、その他の接続を参照してください。

Reset

リセット入力により Midilooper のステップを最初のステップに戻します。ただしステップを演奏するのはクロックソースのクロックとなります。

Divider

このオプションでは、アナログクロック入力から入力テンポをアップスケール/ダウンスケールできます。 **FN + ERASE + UP / DOWN** を押して、デバイダーオプションを変更します。 最も一般的なクロックは 16 分音符ですが、32 分音符のように速くなったり、8 分音符や 4 分音符のようにスローにもできます。ディスプレイには選択した番号が表示されます。「01」を選択すると、プレーヤーはアナログクロックパルスごとに進行します。 不規則なクロックで作業しなくてはならない場合は、このオプションを使用してください。

FN+ERASE+UP/DOWN=DIVIDER			
sets speed of analog clock			
01	24 PPQN	MIDI clock speed = 1 pulse per step	does not internally multiply the clock could be used with DIN sync
32	8 PPQN	1 pulse per 1/32th note	some modular synths
16	4 PPQN	1 pulse per 1/16th note	modular synths
08	2 PPQN	1 pulse per 1/8th note	VOLCAs , PO-x
04	1 PPQN	1 pulse per 1/4th note	TV show audience
PPQN = number of pulses per quarter note			

Note:

アナログクロックは内部で MIDI クロックにアップスケールされ（24 PPQN = 四分音符あたりのパルス数）、DIVIDER の設定は QUANTIZE の動作と他のクロックベースの設定にも影響します。

詳細については、接続とクロックソースの選択を参照してください。

Pedal control

The user interface can be controlled by foot pedals. See Further Connections on how to use external pedals.

ユーザーインターフェイスはフットペダルでも制御できます。 外部ペダルの使用方法については「external pedals」の項を参照してください。

Looping CCs and pitch bend

コントロールチェンジとピッチベンドのメッセージも録音してループに追加することができます。

MIDI ノートと同様に、Midilooper はすべてのチャンネルでこれらを聞いて転送し、そのボイスに割り当てられたチャンネルでのみ再生します。 overdub / overwrite モードは、これらのメッセージには適用されません。

特定の番号の最初の CC が受信されると、Midilooper は調整されたタイミング記憶し、この CC 番号のループの記録を開始します。

ループが終了し、ループ内でその番号の最初の CC と同じ位置に来ると、CC の記録を停止し、記録された値の再生を開始します。

その後、新しく発生した CC は最初の CC として機能し、フルループに達するまで録音します。

これはすべての CC 番号に並行して適用されます（特別な CC を除く：sustain pedal, all notes off など）。

ヒント：**PLAY / STOP + CLEAR** = 選択したボイスの CC のみをクリアします。

ピッチベンドを録音するのロジックは、CC と同じです。

Firmware update

ファームウェアバージョンは、デバイスを起動すると、次の 2 つのフレームでディスプレイに表示されます。

F1 と表示されている場合は、0.0 をファームウェア 1.0.0 と読みます。

最新のファームウェアは、[https : //bastl-instruments.github.io/midilooper/](https://bastl-instruments.github.io/midilooper/)にあります。

ファームウェアを更新するには、次の手順に従います。

- ・ Midilooper を USB 経由でコンピューターに接続する時に、Velocity ボタンを押したままにします
- ・ ディスプレイにはファームウェア更新モードの場合と同様に「UP」と表示され、MIDILOOPER はコンピューターの外部 DISC として表示されます
- ・ 最新のファームウェアファイル（ファイル名 midilooper_mass_storage.uf2）をダウンロードします。
- ・ このファイルをコンピューターの MIDILOOPER ディスクにコピーします（成功を確認するために VelocityLED が点滅し始めます）。
- ・ コンピューターから MIDILOOPER ディスクを安全に取り外しますが、USB ケーブルは取り外さないでください！
- ・ Velocity ボタンを押してファームウェアの更新を開始します（Velocity ボタンの周りの LED が点滅し、デバイスは新しいファームウェアで起動します-起動時にディスプレイのファームウェアバージョンを確認してください）。

MIDI Implementation chart

Receives

On all channels:

Note On, Note Off

Pitch Bend

CC (64=sustain)

Channel mode messages:

All Notes Off

MIDI Real Time Messages: Clock, Start, Stop, Continue

Transmits

On selected channels:

Note On, Note Off

Pitch Bend

CC

MIDI Real Time Messages: Clock, Start, Stop, Continue

MIDI Thru

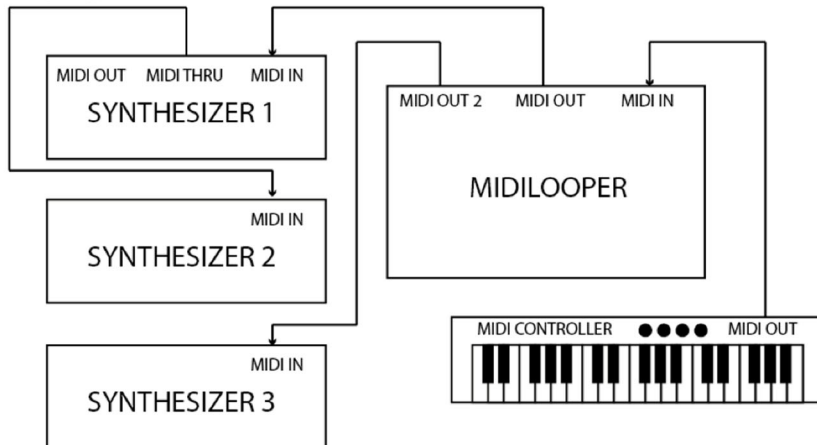
MIDI Thru of MIDI Real Time Messages – MIDI クロックがクロックソースとして選択されている場合のみ。

Setup Examples

SETUP EXAMPLE 1

-no clock source - FREE RUNNING mode

-looping MIDI from a MIDI controller

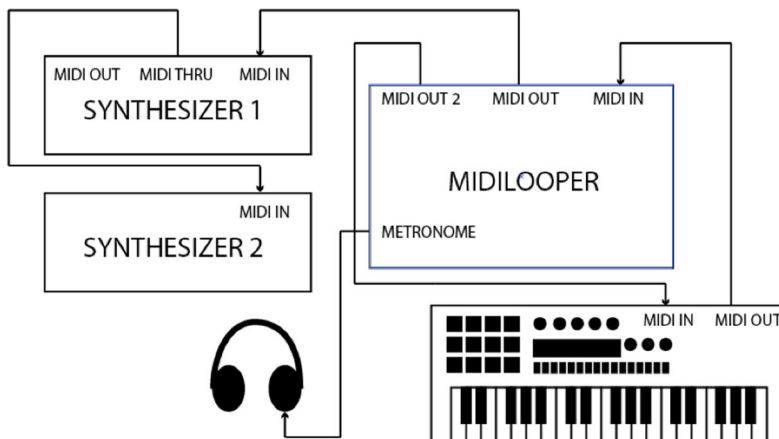


SETUP EXAMPLE 2

-sync'd by MIDI clock

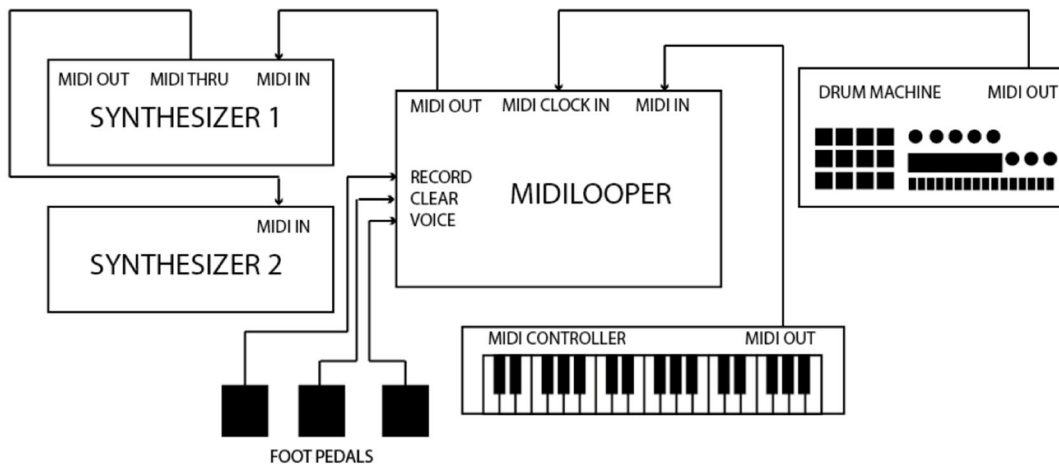
-looping MIDI from more complex instrument

-listening to metronome on headphones



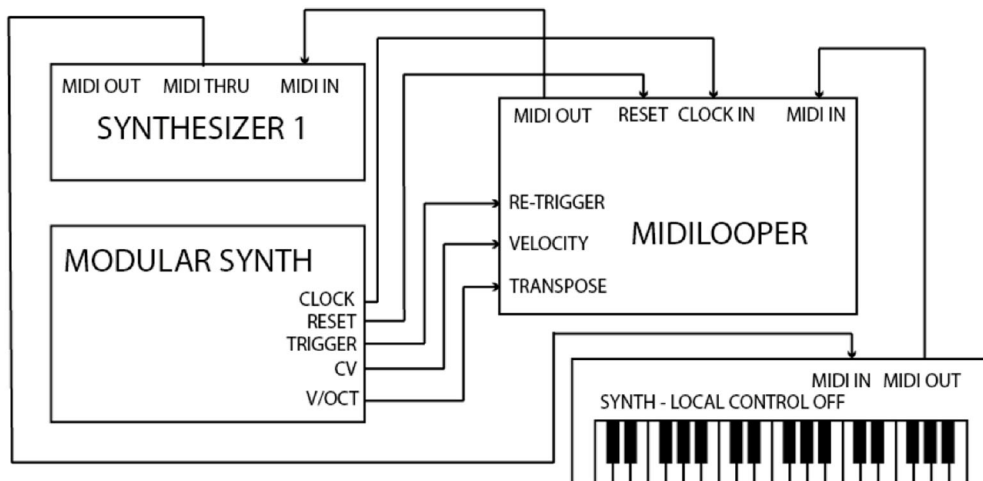
SETUP EXAMPLE 3

- synced to drum machine via MIDI clock (via TRS jack)
- looping midi from a MIDI controller
- controlling looper with footpedals



SETUP EXAMPLE 4

- synced to analog clock from modular synthesizer
- looping MIDI from a keyboard synth
- controlled by CVs and triggers from a modular synth



SHORT MANUAL:

デバイスの背面にも同内容が印刷されています！

In combination: RECORD = PLAY/STOP = A or B or C = VOICE

SETUP:

FN+VOICE+ = MIDI チャンネル設定

FN+TRANPOSE+VOICE+ = オクターブ・トランスポーズ（1つのボイスに対して）

FN+PLAY/STOP = クロックソースの選択:

- MIDI CLOCK on MIDI IN ^
- ANALOG CLOCK
- MIDI CLOCK on CLOCK IN
- TAP TEMPO
- FREE RUNNING

HOLD VOICE for 5s = ボイスに影響を与える CV 入力の選択(VOICE 5 秒押し)

- QUANTIZE button → RETRIGGER (リトリガー、レガートで演奏された最後のノート)
- VELOCITY button → VELOCITY (プレイバックされるベロシティに加算)
- TRANPOSE button → TRANPOSE (V/OCT の値にトランスポーズを追加)

1 つの CV 入力がどのボイスでもアクティブになっていない場合、その入力 は RECORD、CLEAR、または VOICE SELECTION のペダルコントロールとして機能します。

ループのメイキング:

1x RECORD 録音待機状態

最初の MIDI NOTE または PLAY / STOP で録音を開始

1x RECORD でループの長さ（すべてのボイス）を確立し、ループを開始（録音はオフになる）

LENGTH ON (green) = 確立されたループの長さ

1x CLEAR = ボイスデータとループ長を削除

2x CLEAR = 全てのボイスを削除

PLAY/STOP+CLEAR = 1 つのボイスの CC のみを削除

ループのモディフィケーション:

LENGTH+ = すべてのボイスの長さを設定 (ビート数)

LENGTH+VOICE+ = 1 つのボイスに対する長さを設定 (ビート数)

FN+LENGTH+ = すべてのボイスのストレッチ・シーケンス (ダブル/ハーフテンポ)

1x QUANTIZE = すべてのボイスのクオンタイズをオンまたはオフにする

QUANTIZE+ = すべてのボイスにクオンタイズを設定する

QUANTIZE+VOICE+ = 1 つのボイスにクオンタイズを設定する

FN+QUANTIZE+ = すべてのボイスのシャフル量を設定する

1x VELOCITY= すべてのボイスに対するベロシティの on/off

VELOCITY+ = すべてのボイスに対するベロシティ設定

VELOCITY+VOICE+ = 一つのボイスに対するベロシティ設定

FN+VELOCITY+ = すべてのボイスのヒューマニズ量を設定します (ベロシティのランダムな変化)

1x TRANSPOSE = ライブトランスポーズモードに入ります (VOICE を押すことで終了)

TRANSPOSE + VOICE = トランスポーズの影響を受けるボイスを選択する

TRANSPOSE + play MIDI Note = ルートノートを選択